

インターンシップ制度を活用した大学生の実務体験

研究推進部 研究推進室

農研機構では、最先端の研究開発スキルや考え方および取り組み方の体験を目的として、学生を対象としたインターンシップを実施しています。

当部門では8月12日(木)から25日(水)の日程で岡山大学の森内海渡さんが施設保全グループで実験などを体験しました。なお、茨城県に緊急事態宣言が発令されたため、23日(月)以降はテレワークでの実験取りまとめや成果報告に変更しました。

インターンシップ生の感想

今回のインターンシップでは、「農村の生物環境の分析にかかる実習」をテーマに、様々なことを体験することができた。水田域で見られる魚類の遊泳測定の実験や、現場での視察などを経験し、とても充実した時間を過ごすことができたと思う。実際の研究現場に立ち会えた、という経験はもちろんだが、念入りな準備を行うことの重要性や、横の繋がりを始めとする対人関係の必要性、そして実験の本質的な理解など、筆舌に尽くしがたい、沢山のことを学ぶことができたように感じる。今回学んだことを、今後の学生生活でも大いに活かしていけたらと思う。

施設保全グループ 竹村武士グループ長補佐からのコメント

水田水域に生息する淡水魚類の代表種としてタモロコを対象に、遊泳時から遊泳後にかけての酸素消費量測定実験の実施を依頼しました。片付けから準備、測定、データ整理までの一通りの実際を体験することで、一つ一つの作業の確実性や粘り強い実行性が大切なことを学んでもらえたものと期待しています。最初は戸惑いも多かったようですが、回を重ねるごとに少しずつ自信をつけていく様子に若者の逞しさを感じました。今回の経験を今後の学生生活や進路検討に少しでも役に立てて頂けたら望外の喜びです。



実験中の様子（中央やや左側のパーティション裏に実験装置。モニターを通して観察中）